

←
フダンソウ「ブライトライト」は、葉柄が黄色や紅色、橙色、白色など、極めて色鮮やかなことが一番の特徴。

「ブライトライト」は、フダンソウ（不断草・恭菜（ふだんな）、英名スイスチャード）の一種です。フダンソウは古くから作られており、かつてはホウレンソウの代用品として、特に暑さの厳しい夏の時期に家庭菜園を中心に作られてきました。暑さに大変強く、また土壌を選ばないことから、極めて作りやすい野菜です。

一方カキチシャは、リーフレタスやサニーレタスなど、結球しないタイプのレタスの仲間です。最近ではサラダのほかに、焼き肉を包んで食べるなど、用途が広がっています。これも特に土壌を選ばないので、作りやすい野菜です。

そこで今回は、新発売のフダンソウ「ブライトライト」と、韓国カキチシャ「チマサンチュ」の品種紹介と、栽培の要点をご紹介します。

新発売！ 自家菜園にピッタリ！

スイスチャード（ふだんそう）「ブライトライト」（別名：カラフル菜）と 韓国カキチシャ「チマサンチュ」

～その特性と作り方～

タキイ研究農場　平松宏典

新発売

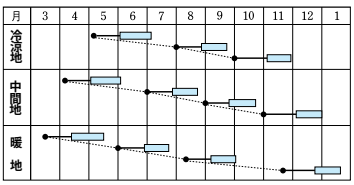
申込番号 43-002-01

夏場で「青もの菜」のない時期でも収穫できる！

スイスチャード
ブライトライト
（別名：カラフル菜）〈混合種〉

1袋　**260円**

ブライトライトは各色混合種です。1粒のタネからいろいろな色の葉がでるわけではありません。各1粒は1色となります。





→
葉がしなやかな韓国カキチシャ「チマサンチュ」の赤葉種。

新発売

焼肉やご飯などを包んで食べる韓国カキチシャ！

チマサンチュ
（包　菜）

各1袋　**260円**

申込番号 43-002-02
●**青葉種**…主に春まき初夏どりによい

申込番号 43-002-03
●**赤葉種**…主に夏秋まき年内どりに向く

青葉種・赤葉種とも限定2,000袋
売り切れの節はご容赦ください。

◆スイスチャード（フダンソウ）

「ブライトライト」

カラフル菜「ブライトライト」は、一般のフダンソウとは異なり、葉柄が黄色や紅色、橙色、白色など、極めて色鮮やかなことが一番の特徴です。また、フダンソウ特有のアクや臭みが少なく、お浸しや油炒めだけでなく、サラダにも最適です。収穫もサラダに使える小株から、草丈50㎝の大株まで自由に収穫できます。また、20㎝程度になった下の葉から順次収穫するかき葉どりも可能です。



↑収穫はサラダに使える小株から、草丈50㎝ぐらいの大株まで自由に収穫できる。プランターでも作りやすい。

播種

栽培は直播で行います。通常は畝幅60㎝の1条まきとし、間隔を5㎝程度にして点播します。その後、適宜収穫しながら株間を20㎝程度まで広げます。草丈7～8㎝の幼株収穫を狙うなら、条間6～8㎝、間隔2㎝程度に播種します。

播種期は、厳寒期を避ければいつでも播種できますが、目安としては一般地の露地栽培で4～11月まき、暖地なら3月からまけますし、高冷地なら5～10月まきが適当でしょう。また、プランターなどを使っても簡単に栽培できます。

収穫は株の大きさにもよりますが、播種後30～50日程度です。

施肥量

施肥量は、10㎡当たり堆きゅう肥10kgのほか、成分でチッソ140g、リン酸50g、カリ60gぐらいとし、小株どりや早どりでは全面施用、かき葉どりの長期収穫なら2～3回の追肥を行います。プランターで作る場合は、堆きゅう肥を使うのは難しいので、堆肥が配合された培土を使うとよいでしょう。

病虫害防除

病虫害は少ないですが、アブラムシ類や、ヨトウムシなどが付く場合もありますので、適期の防除が必要です。



↑栽培は直播で行い、畝幅60㎝の1条まきにする。



←「ブライトライト」は、暑さに大変強く、また土壌を選ばないことから、極めて作りやすい。

◆韓国カキチシャ

「チマサンチュ」

カキチシャは、レタスの仲間で、リーフレタスやサニーレタスとよく似た野菜です。しかし、リーフレタスなどよりは断然暑さや寒さに強く、夏場でも、また厳寒期を除けば冬場でも簡単に作れます。

さらに、別名「包菜」の名の通り、焼肉などを包んで食べるなら、葉がしなやかなカキチシャの方が向いています。



↑韓国カキチシャ「チマサンチュ」は、別名「包菜」の名の通り、焼肉やご飯などを包んで食べるのに向く。

播種～定植

直播でも可能ですが、ポットなどで育苗する方が管理が容易です。播種はほぼ周年できますが、11月から2月までの冬季の育苗は、無加温温室などの被覆下で行います。

定植は播種期によっても異なりますが、夏場で播種後2～3週間、冬場で3～4週間後ぐらいで、本葉が4～5枚ぐらいの苗を定植します。

冬場を除けば、マルチによる保温は必要ありませんが、収穫期間が長いため、除草などの手間を省力するうえではマルチ栽培が便利です。その際、夏場は高温になりがちですので、白マルチかシルバーマルチを使って地温の上昇を防ぎます。

定植は、条間25cm、株間25cmとします。また、土質を選ばないので、プランターなどでも簡単に作れます。

直播する場合も条間や株間は同じです。ただし、直播する場合は、2～3粒播種して、本葉が1～2枚出たころに間引きをするようにすると、欠株が防げます。



↑韓国カキチシャ「チマサンチュ」は暑さにも寒さにも強く、また病気にもほとんどかからず、大変作りやすい。

施肥量

カキチシャは石灰欠乏症が出やすいですが、10㎡当たり1～1・5kgの苦土石灰を散布し、土壌の酸度を矯正して、石灰欠乏症を防ぎます。

その他の施肥量は、リーフレタスなどとほぼ同じで、10㎡当たりの成分でチッソ150g、リン酸100g、カリ150gぐらいが適当です。堆肥などを利用できるなら、なおよいでしょう。

収穫

カキチシャの名の通り、収穫は手のひらサイズになった下の葉からかき取っていきます。時期にもよりますが、播種後1ヵ月ぐらいから収穫し始め、その後1～2ヵ月ぐらいは収穫できます。

病虫害防除

カキチシャは暑さにも寒さにも強く、また病気にもほとんどかからず大変作りやすい野菜です。害虫も付きにくい作物ですが、時にアブラムシやヨトウムシなどの被害が出る場合もありますので、早めに防除することが肝心です。